

2 報告事項

(1) 大会輸送概要

① 東京2020大会の概要

1. 東京2020大会の概要

■オリンピック

- ・会 期：令和3年7月23日（金）～8月8日（日）【17日間】
- ・競技数：33競技
- ・会場数：42会場（都内24会場、都外18会場）
- ・参加国等：205の国・地域及び難民選手団
- ・参加人数：選手11,259人（うち日本選手団583人）
女性選手の割合約49%
- ・日本のメダル数：金27個、銀14個、銅17個
- ・観 客：無観客・・・東京・埼玉・千葉・神奈川・北海道・福島
有観客・・・宮城・静岡・茨城（学校連携観戦のみ）（観客は43,300人）

■パラリンピック

- ・会 期：令和3年8月24日（火）～9月5日（日）【13日間】
- ・競技数：22競技
- ・会場数：21会場（都内15会場、都外6会場）
- ・参加国等：162の国・地域及び難民選手団
- ・参加人数：選手4,405人（うち日本選手団254人）
女性選手の割合約42%
- ・日本のメダル数：金13個、銀15個、銅23個
- ・観 客：無観客
[学校連携観戦] 東京・埼玉・千葉で実施（都内は参加10,543人）

② 東京2020大会時の交通対策と交通量

2. 東京2020大会時の交通対策と交通量

交通需要マネジメント (TDM)

① 企業説明会の実施

説明会約600回、個別相談約3,800回 (WEB含む) を実施し、人の流れや物の流れについて混雑回避の取組を呼びかけ

② 2020TDM推進プロジェクトの推進

経済界・業界団体等の多様な主体が一体となり、大会時の交通混雑緩和を目指す取組を推進 (約5万社・910団体で構成)

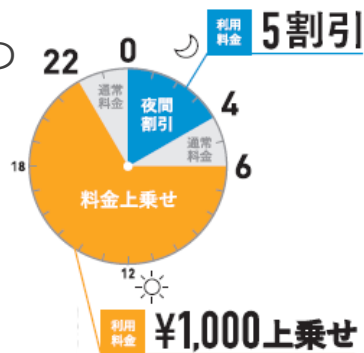
③ 大会期間中の集中広報

交通混雑の緩和と感染拡大防止に向けた人流抑制など、多様なメディアによる集中的な広報を実施

首都高速道路における料金施策

夜間の料金割引および日中時間帯の料金上乗せを実施

適用期間：7月19日 (月) ~8月9日 (月)
8月24日 (火) ~9月5日 (日)



交通システムマネジメント (TSM)

① 高速道路の交通対策

本線料金所の通行制限や、交通状況に応じて入口閉鎖、本線車線規制、JCT部での方向別規制を実施

② 一般道/競技会場周辺の交通対策

信号調整や駐車対策が一部で実施されたほか、進入禁止エリアや通行規制エリア、う回エリアを設置



③ 関係者輸送ルート等の設定

大会期間中、選手などの大会関係者が利用する関係者輸送ルートを設定

【関係者輸送ルート】

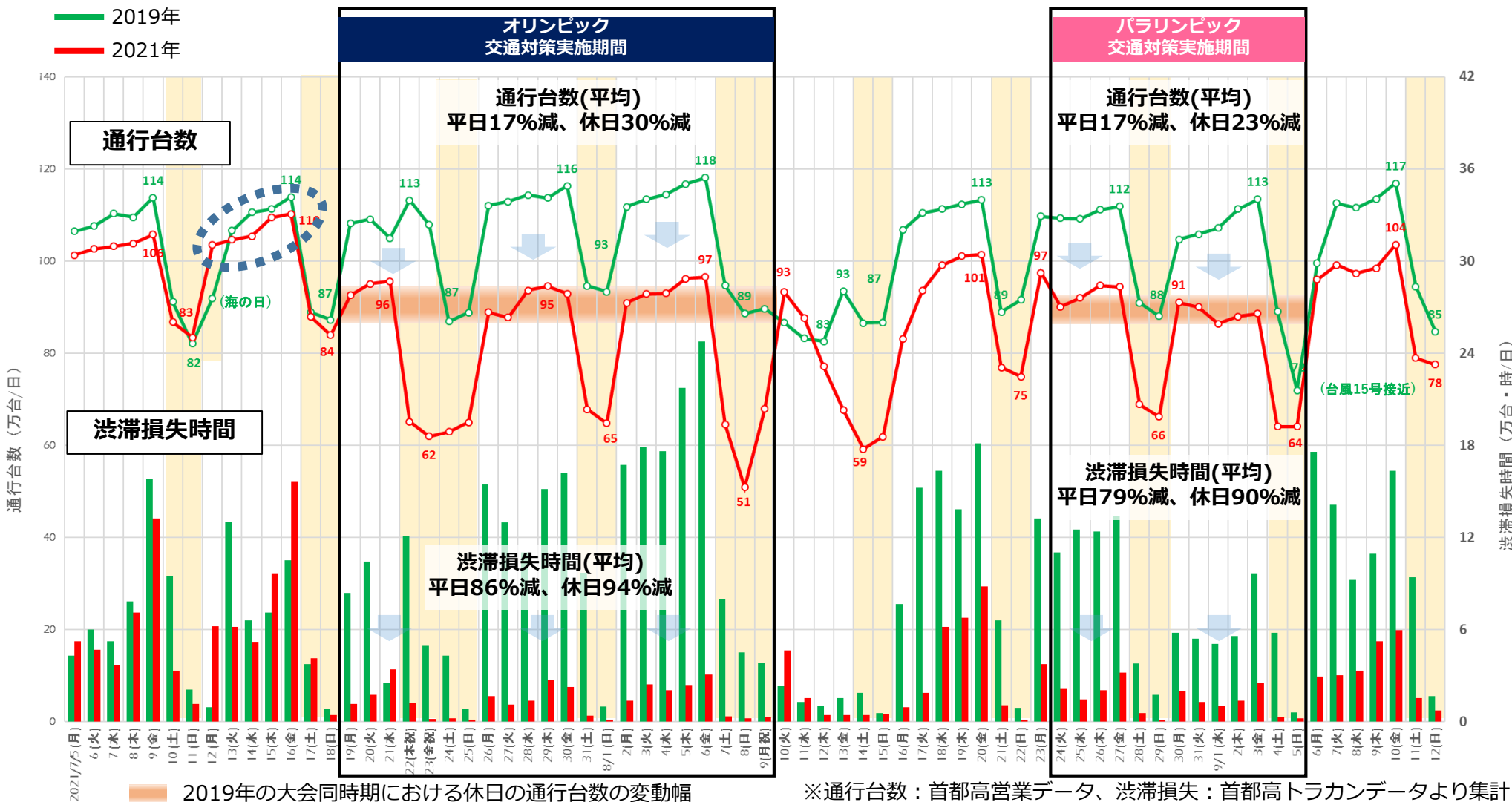
- ・大会ルート
- ・練習会場ルート
- ・代替ルート

桜色のバスの看板や
路面表示を設置



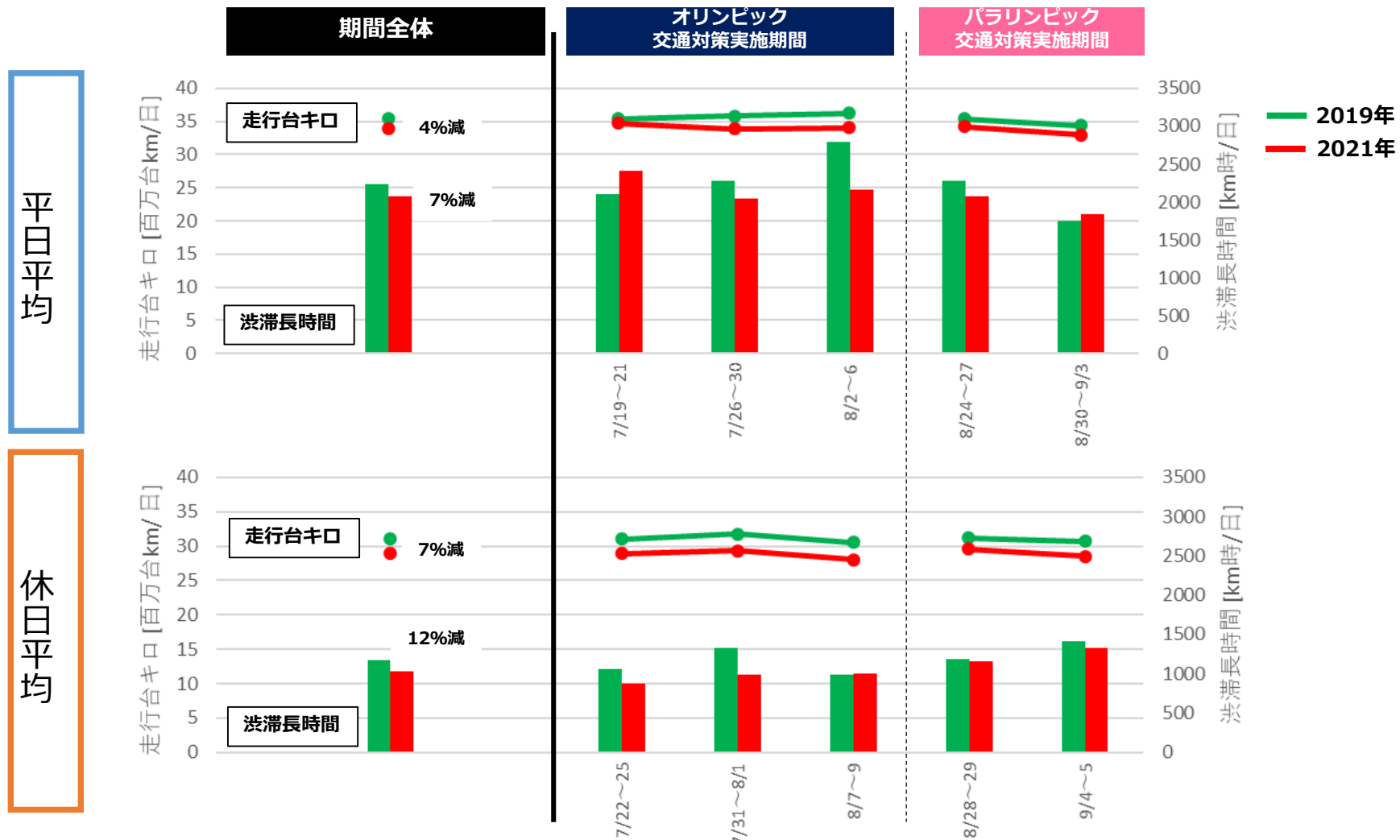
大会期間中における首都高の通行台数と渋滞の減少

- 通行台数（大会直前）：2019年と比べ同程度で推移
- 通行台数（期間中）：対2019年比で平日は約2割減少（2019年の休日の通行台数と同程度）
- 渋滞損失時間（期間中）：平日は約8割減少



大会期間中における一般道の交通量と渋滞の減少（東京都全域）

- 走行台キロ（交通量）、渋滞長時間ともに2019年と比較して減少
- 渋滞長時間が2019年を上回る期間も一部でみられた（平日：7/19～21等）



※2019年は同時期同曜日の平均

※警視庁データ（一般道に設置されている車両感知器による計測）より集計